

（“Adolescents and youth”）である。また第46回会議のテーマは「人口移動の新潮流：人口学的局面」（“New Trends in Migration: Demographic Aspects”）が提案され決定した。なお、第47回会議のテーマは、カイロ会議から20年の節目にあたることから「国際人口開発会議の行動計画実施状況の評価」（“Assessment of the Status of Implementation of the Programme of Action of the International Conference on Population and Development”）となる予定である。

なお、会議の閉会に際し、社会経済理事会のステルツァー事務次長補、ホーグUNFPA技術部長、ズロトニック人口部長及び議長より挨拶があり、会議議長の閉会挨拶のなかで、ズロトニック人口部長、ビュットナー同副部長及びガスト同課長など今次人口開発委員会を最後に退官する職員への感謝の言葉が述べられた。（高橋重郷記）

国際将来人口推計セミナー：韓国・中国・日本

2011年5月27日、韓国ソウルのシーラホテルにおいて、韓国統計局主催による標記会議（英題：International Population Projection Seminar: Korea, China and Japan）が開催された。これは、同時に開催されていたアメリカ・アジア・太平洋統計局長会議による第25回センサス会議の一部として開かれたセミナーである。本研究所からは、金子隆一人口動向研究部長及び筆者の二名が参加し、報告を行った。

セミナーは午前と午後のセッションに分けて行われた。午前のセッションでは将来人口推計に関する技術的な話題がテーマとなり、Kwang Hee Jun忠南大学教授、韓国統計局スタッフと日本・中国の報告者という小グループで討論が行われた。韓国統計局Woon Joo Suh人口・社会統計局人口動態部長が座長を務め、日本から金子部長・石井が“Technical outline of population projection for Japan”，中国からCPDRCのQin Min氏が“Introduction of population projection in China”を報告し、討論を行った。

一方、午後は将来人口推計に関する学術研究者、政策担当者、推計のユーザーなどを対象とした、より大規模なセッションとなった。韓国人口学会長Seung Wook Lee教授が座長を務め、韓国統計局Byoung Tae Oh人口社会統計局長の開会の辞に引き続き、Woon Joo Suh部長とJiyoun Lee部長代理が“The 2006 Population Projection for Korea: Method and Evaluation”として、韓国の直近の将来推計と次期推計の課題を報告した。続いて、中国からCPDRCのShi Wenzhao氏が“PADIS Project & PADIS-international version software”として、ウェブ上で将来人口推計を行うことを可能にするシステム（PADIS, PADIS-int）に関する報告を、日本から金子部長・石井が“Prospects for the society of lowest fertility with longest life: what the population projection tells us”として、前回推計から見た日本の将来像と今後の課題等について報告を行った。各報告にはそれぞれ二名ずつの討論者が討論を行い、最後に全体的な質疑応答が行われた。

セミナーを通じ、韓国については出生、死亡、移動のどの要因についても、将来を見通すことが非常に難しく、推計に関する高い技術が必要とされていることを感じた。一方、中国のPADIS-intは、仮定値の入力から結果の表示に至るまでユーザーフレンドリーなインターフェイスが構築されており、感銘を受けた。

三か国は地理的には近い位置にありつつも、政策面での違いもあり、将来人口推計上の課題は重なり合う部分・相異なる部分の両者が存在し、本セミナーで行われたように、お互いの知識・経験を共有することで、将来人口推計技術のさらなる向上が期待できる。今後も、この三か国の将来人口推計関係者間で、より密接な協力体制が築かれることが望ましいと感じた。（石井 太記）